



葛西臨海公園マネジメントプラン

令和7年(2025)3月
東京都 建設局

はじめに

I	公園の概要	2
	1 都市計画の概要	
	2 開園の概要	
	3 主な公園施設	
	4 成り立ち・基本的な性格	
	5 周辺の土地利用・自然環境	
	6 利用概況及び特色	
	7 整備計画等	
II	目指す姿及び重点取組、ゾーン別基本方針	5
	1 目指す姿及び重点取組	
	2 ゾーン別基本方針	
III	図面・写真	11
	現況平面図	
	周辺土地利用図(空中写真)	
	周辺土地利用図(地図)	
	占用基準を緩和する区域図	
	園内の写真	
IV	資料編	15
	公園の沿革	
	利用状況等データ	
	主な催し物	
	主な活動団体	
	関連する行政計画等	

公園別マネジメントプランは、都立公園全体の整備・管理運営の指針として、東京が目指す公園づくりの方向性を示すパークマネジメントマスタープランに基づき、公園ごとの性格・役割を踏まえて各都立公園の10年程度の目標や維持管理・運営管理等の取組方針を定めたものです。

改定にあたっては、今後新たな10年間を見据えた公園づくりを目指して、「公園別マネジメントプラン（共通編）」（以下、「共通編」という。）と「公園別マネジメントプラン（個別公園編）」（以下、「個別公園編」という。）の2編構成として取りまとめています。

共通編は、全ての都立公園の質を向上させるために取り組む基本事項を明らかにし、維持管理・運営管理・公園整備の3つの視点から実施すべき取組内容を示すとともに、全ての視点に共通する4つの事項（戦略的広報、協働、リサーチとマーケティング、デジタルトランスフォーメーション）における取組内容を定めています。

個別公園編は、それぞれの公園の特性を生かした多様な公園を創出するため、公園ごとに目指す姿や重点的な取組などを定めています。

共通編と個別公園編を踏まえたマネジメントを推進することにより、都立公園全体の機能や価値を向上させていきます。

共通編は別冊となっておりますので、本冊と合わせてご参照ください。

マスタープランが示す目標の実現に向け、施策を効果的に推進していくため、取組の進捗状況の確認と検証を行いながら、適切な進行管理を行っていきます。また、取組の進捗や社会状況の変化に応じて、取組を弾力的に進めていくことが必要であり、取組の内容や目標を発展的に見直していきます。

I 公園の概要

1 都市計画の概要

名称	東京都市計画公園第9・6・2号葛西臨海公園
位置	江戸川区臨海町六丁目地内
面積	183.50ha（水域100.4ha含む）
種別	広域公園
決定告示	（当初）昭和47年1月14日 東京都告示第40号 （最終）昭和60年6月17日 東京都告示第663号

2 開園の概要

名称	都立葛西臨海公園（かさいりんかいこうえん）
開園日	平成元年6月1日
開園面積	778,597.49㎡（令和7年2月1日現在）
公園種別	広域公園
所在地	江戸川区臨海町六丁目
アクセス	JR京葉線・武蔵野線「葛西臨海公園」、東京メトロ東西線「西葛西」・「葛西」から都営バス（葛西臨海公園行き）終点、京成バス「シャトルセブン」（東京ディズニーリゾート行き）「葛西臨海公園駅」、東京水辺ライン「お台場海浜公園」から約50分「葛西臨海公園」、駐車場（有料、24時間）

3 主な公園施設

管理事務所、駐車場、葛西臨海水族園、鳥類園ウォッチングセンター、展望レストハウス、展望広場、汐風の広場、芝生広場、わくわく広場、大観覧車、バーベキュー広場、江戸川区宿泊施設

園内マップ



4 成り立ち・基本的な性格

本公園は、東京臨海部の東に位置する都市計画公園である。荒川、中川放水路と旧江戸川河口に囲まれた位置で行われた「葛西沖開発土地区画整理事業」において、浚渫土砂及び建設残土による埋立造成された区域内あり、水域を含め計画決定された。本公園には高潮を防ぐための防潮堤が園地と一体となり、西から東へと長く設けられている。南側には、東西の人工なぎさを有し、ラムサール条約湿地を含む葛西海浜公園（都立海上公園）（計画区域の一部が重なる）が隣接し、西側には夢の島公園や辰巳の森海浜公園（都立海上公園）、臨海副都心の公園群に連なり、臨海部の水の緑のネットワークを形成する重要な役割を担っている。

本園は、水族園、鳥類園、芝生広場、大観覧車、展望レストハウス、レストラン、ホテル等の施設が整備され、計画区域内の陸域部分が開園されている。南側にある東なぎさと西なぎさからなる葛西海浜公園には、葛西渚橋で接続し、一体となって東京湾有数の海辺のレクリエーション・空間となっている。交通機関は多種多様で鉄道、バスに加え、海上バス等も運行されている。

2019年には、本公園の隣接地にカヌー・スラロームセンターが整備され、東京2020大会において、カヌー（スラローム）競技会場として使用された。なお、東京都地域防災計画及び江戸川区地域防災計画により防災上の重要な位置付けを持っている。

5 周辺の土地利用・自然環境

(1) 周辺の土地利用

- ・東京駅からJR京葉線で東に約10kmのところにある葛西臨海公園駅の南側に位置している。また、北に約2kmのところには東京メトロ東西線の葛西駅がある。
- ・都市高速道路網第2環状の一部である首都高速湾岸線があり、その葛西ランプが葛西臨海公園に隣接している。また環状7号線と首都高速湾岸線との立体交差点に公園正面入口があるなど、自動車交通利便性が高い。

- ・公園に西側には下水処理場がある。
- ・また、江戸川の対岸の千葉県側には、東京ディズニーリゾートがある。
- ・本公園の隣接地に、2019年にカヌー・スラロームセンターが整備され、東京2020大会において、カヌー（スラローム）の競技会場として使用された。

(2) 自然環境

- ・葛西臨海公園は、東京都の東端部である荒川、中川放水路と旧江戸川河口に囲まれた位置に埋立造成された「葛西沖開発土地区画整理事業」用地の一部にあたる。
- ・葛西沖埋立地の特色は、中央防波堤に囲まれた内水域の埋立ではなく、東京湾の水域と内陸部とが直接面していることが特筆され、南側水域には遠浅な三枚洲、高洲干潟を持つなどの点があげられる。
- ・葛西沖埋立地は、利根川・荒川水系によって形成された沖積低地の一部に属し、荒川・江戸川の河口に形成された広大な洲を埋立造成して作り出された土地で、周辺はきわめて平坦な地形である。
- ・東京低地の東端に位置し、武蔵台地と下総台地のほぼ中間に位置する。ここの地層構造は、地表面から約10メートルに及び軟弱な沖積地盤上に細砂を主成分とした浚渫土砂を数メートルの厚さに盛土し、さらにその上に建設残土を盛って、埋立造成されたものである。
- ・埋立が始まった昭和47年以前の葛西沖は、地盤沈下の進行もあって水田、蓮田、沼地等にはヨシスゲを中心とする湿生草地があり、ヨシ群落、チガヤ・ススキ群落に相当する植生状態であったと言われる。
- ・隣接する都立葛西海浜公園の干潟は、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地であるラムサール条約湿地に登録されている。

6 利用概況及び特色

当公園の利用者のうち、多くが葛西臨海水族園を訪れることから、水族園の閉園日を除く平日は、主に中学生以下の遠足の利用が多い。休日になると団体で水族園、園内の散策、バーベキューの利用が見られる。また汐風広場でピクニックしながら昼食する姿が良く見られる。鳥類園のあるエリアはそれほど混雑していない。

① 芝生広場

緩やかな勾配の芝生広場を中心に、蓮池、散策路、樹林、休憩舎があり、宿泊もできる。

② 汐風の広場

親水護岸に沿う緩やかな勾配の芝生広場、東京湾を望む展望レストハウス「クリスタルビュー」、芦ヶ池などがあり、臨海部の景観や潮の香りが満喫できる。

③ 水族園

葛西臨海水族園で海の生物等とのふれあいを楽しめる。

水族園は開園から 30 年以上経過し、国内外の社会状況の変化や、施設や設備の老朽化に対応する必要性が生じている。多くの人々に親しまれる都立水族館としての使命をこれからも果たしていくため、「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園」を理念に掲げ、新たな水族園を整備していくこととしている。

④ 鳥類園

核となる鳥類園ウォッチングセンターでは、レクチャールームや情報コーナーで、鳥に関する映像や展示を行っている。2つの池、観察小屋、観察窓などがあり、野鳥等の自然観察ができる。

7 整備計画等

(1) 葛西臨海公園の整備計画の見直し(昭和 61 年)

次の基本的な考え方にに基づき計画を行っている。

- ・海と深いつながりを永い間もってきた葛西地区の歴史をふまえながら、都の公園系統計画に基づき、海辺の自然との調和のとれた公園とするものとし、それが地域の振興、活性化にも寄与するような計画とする。

II 目指す姿及び重点取組、ゾーン別基本方針

1. 目指す姿及び重点取組

目指す姿

公園の特性を生かし、公園の魅力を高めるほか、生物多様性の保全や災害時の防災機能の強化等を進め、豊かな自然を感じ、都市の防災力を支える、魅力あふれる海辺の公園としていく

この目標を達成するため、本公園では次のことに重点的に取組んで行く。
なお、各取組の具体的内容等については、事業計画等の作成時にそれぞれ設定し、マネジメントサイクルのなかで見直しを行っていく。また、各項目及び施策名はパークマネジメントマスタープランと連動している。

重点取組

(1) 生物多様性の保全と回復

【施策1 緑と環境をまもる】

- 多様な生物の生息空間やエコロジカルネットワークの拠点として、樹林や水辺等について生物の生息環境の整備を行い、モニタリング等を継続しながら順応的な管理を実施します。南側には、東西の人工なぎさを有し、ラムサール条約湿地を含む葛西海浜公園（都立海上公園）（計画区域の一部が重なる）が隣接しており、希少生物種の保全や特定外来生物対策、生物情報の蓄積などに取り組みます。

- 水族園では、希少種の保護、繁殖、生息域外保全や、飼育や交配の専門的な知見を活かした生息域内保全に取り組むとともに、野生生物保全の重要性を発信します。

(2) 公園施設の整備・維持管理水準の底上げ

【施策2 安らぎをまもる】

- 長寿命化計画に基づき老朽化した施設やインフラ設備の更新などを進めるとともに、多様な利活用ニーズに応える公園施設への改修を行います。

(3) 地震防災機能の強化

【施策3 命と暮らしをまもる】

- 震災時の避難場所として防災照明や災害用トイレ等の防災関連施設の整備を計画的に行います。

(4) 災害時対応の円滑化と訓練の充実

【施策3 命と暮らしをまもる】

- 地元自治体や関係機関と連携した地域住民も参加する防災訓練や、防災フェアなどのイベントを充実させます。また、大規模救出救助活動拠点として、発災時の迅速な初動対応体制を強化するため、活動拠点の運営を行う現地機動班とともに定期的な訓練を実施します。

(5) 特色あるイベント等の充実

【施策6 にぎわいをふやす】

- 公園の魅力に光を当てる、特色あるイベントを充実し、賑わいを創出します。
- イベント等、地域全体の魅力向上や活性化を視野に、自治体や近隣の文化施設、地元企業等多様な主体と連携した取組を進めます。

(6) 観光資源としての魅力向上

【施策6 にぎわいをふやす】

- 葛西臨海水族園の再整備など、動植物園の施設改修や展示内容の充実等を進めます。
- 障害のある子どもたちのための観覧ツアーや園内プログラムの改善など、水族園におけるアクセシブルな取組を更に進めます。

(7) 多様な過ごし方ができる空間づくり

【施策7 笑顔をふやす】

- ゆったりと静かに過ごす、にぎわいを楽しむなど、利用目的に応じて、訪れた人が快適に過ごせる場を提供します。
- 長く滞在したくなる居心地の良い空間を創出し、緑に囲まれて過ごせるポイントづくりを進めます。

(8) 公園の魅力を高め TOKYO の顔に

【施策9 施設や空間をかえる】

- 公園の特性を活かしつつ、印象的な花の景観を創出し、エントランスや園路広場等のエリアをリニューアルすることで、個々の公園が持つ特性を活かしつつ、誰もが使いやすく楽しめるようリニューアルを行う「都立公園リフレッシュプロジェクト」を展開します。

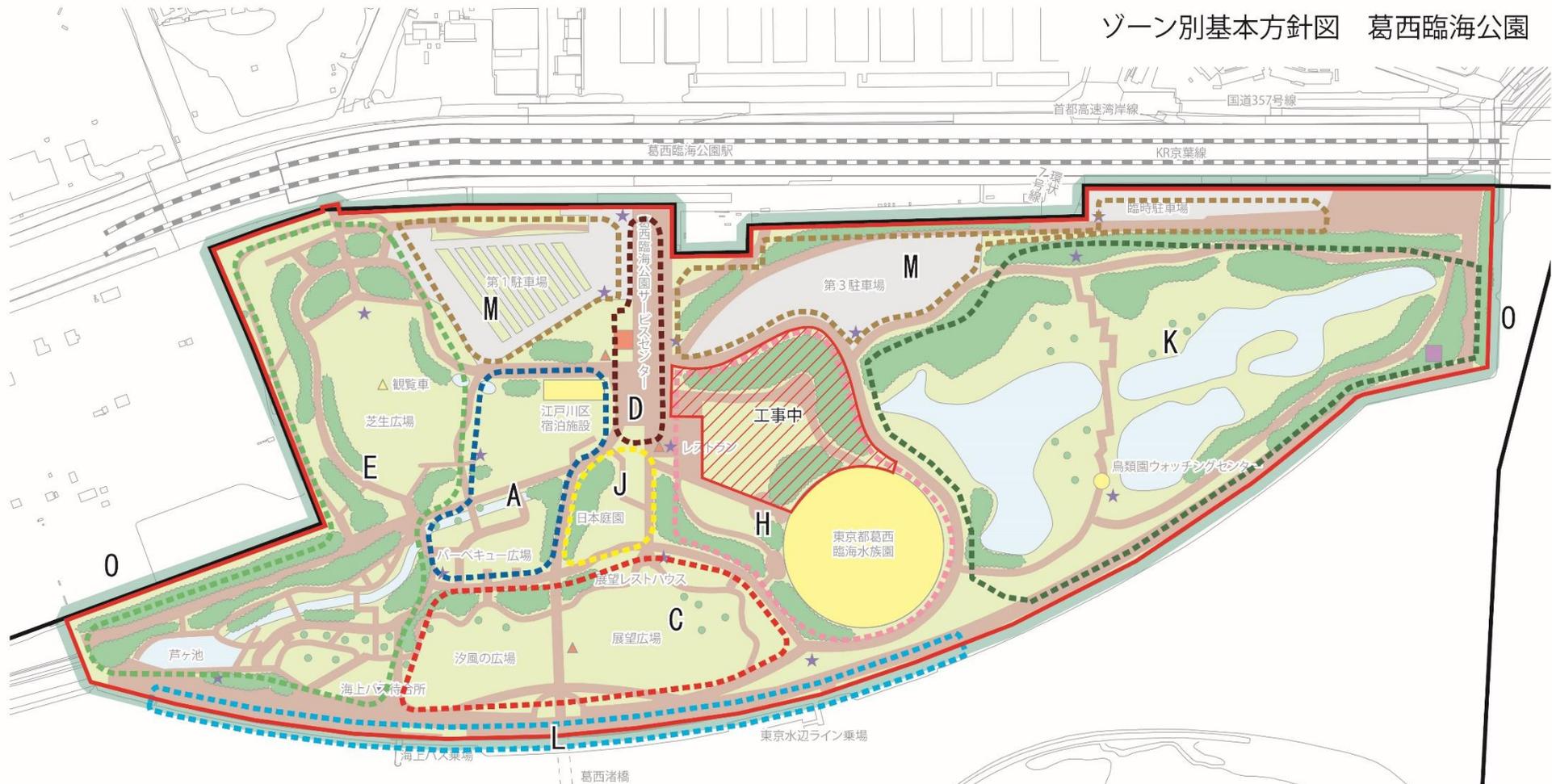
(9) 誰もが使いやすく楽しめる公園づくり

【施策9 施設や空間をかえる】

- ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、段差解消、トイレのバリアフリー化や機能分散、サインの多言語化等のバリアフリー化を目指し、「誰もが利用しやすい公園等の整備」事業を実施します。

2. ゾーン別基本方針

ゾーン別基本方針図 葛西臨海公園



凡例

記号	名称	記号	名称
	A 多目的広場ゾーン		J 修景ゾーン
	C イベント広場ゾーン		K 環境共生・保全ゾーン
	D 入口広場ゾーン		L 水辺・親水ゾーン
	E 休息・散策ゾーン		M 駐車場ゾーン
	H 展示・学習ゾーン		O 外縁部ゾーン

この地図は、国土地理院長の承認(平29国測公第444号)を得て作成した東京都地形図(S=1:2,500)を使用(6都市基交第884号)して作成したものである。無断複製を禁ずる。

■ゾーン別基本方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーン毎の基本方針を定める。

なお、ゾーン別基本方針は、原則として開園区域を対象に定めるものとし、新規開園区域があった場合は整備内容等を踏まえ、必要に応じ追記等を行う。

記号	区分	基本方針
A	多目的広場ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> バーベキュー広場、宿泊施設のあるゾーン <p>バーベキュー広場、宿泊施設として施設を良好な環境に保つとともに、明るい疎林地として休息や交流等の利用にも対応していく。宿泊施設は運営主体が異なることから、双方が連携を図りながら、連結部など施設利用と調和した管理を行う。</p>
C	イベント広場ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 展望広場のあるゾーン <p>緩やかな南側斜面の芝生広場を中心に、散策路、樹林、休憩舎等のある地区。イベント等の利用に対応していくとともに、散策・休息等を楽しめるよう対応していく。また、展望レストハウスは公園のシンボル施設として海や芝生広場と調和した建築景観を確保するとともに展望・展示・休息機能等を維持していく。</p>

記号	区分	基本方針
C	イベント広場ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 汐風の広場ゾーン <p>親水護岸に沿う緩やかな勾配の芝生広場で、臨海部の景観や香りが満喫できる地区。イベント等の利用に対応していくとともに、散策・休息等を楽しめるよう対応していく。</p> <p>本公園は、空間の広さと海への開放性が最大の魅力となっており、汐風の広場および展望広場は、公園中央部から南面の海を臨むビューポイントとして維持管理を行う。</p>
D	入口広場ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 入口広場のあるゾーン <p>J R 葛西臨海公園駅前に位置する広場であり、円形の噴水を中心に入口広場に相応しい景観づくりを行うとともに、待合・休息等の利用に対応していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロムナードのあるゾーン <p>葛西臨海公園駅の駅前広場と入口広場から、展望広場クリスタルビューまでの本公園の中心（骨格）となる園路で海へのプロムナードと称している。駅前の入口広場から展望広場に至る本公園の主園路である。休日には路上パフォーマンス等があり賑わいがある。多数の利用があり、動線が集中するため、安全性・防犯性を確保した快適な歩行空間としていく。</p>

記号	区分	基本方針
E	休息・散策ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場のあるゾーン 現在の広々とした開放的な空間を維持し、また、樹林地や蓮池は、季節感のある散策・休息空間としていく。 ・水と緑にかこまれた静かなせせらぎゾーン 海辺公園の中にあって木立に囲まれた溪谷的なイメージを持つせせらぎの水辺空間である。静かな木立のなかで散策や休息、緑陰を楽しめる空間としていく。
H	展示・学習ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・葛西臨海水族園のあるゾーン 葛西臨海水族園で海の生物等とのふれあいを楽しめる地区。運営主体が異なることから、双方が連携を図りながら、連結部など施設利用と調和した管理を行う。「第2次都立動物園マスタープラン」（令和2年11月）に基づき対応していく。 施設や設備の老朽化等に伴い新たな水族園の整備を進めており、現在の本館は今後も保存する予定である。
J	修景ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・日本庭園のあるゾーン 松や梅を配植した日本庭園であり、ここを目的に訪れる利用者も見られる。現在の環境を維持していく。

記号	区分	基本方針
K	環境共生・保全ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥類園のあるゾーン 園内には、観察舎、ウォッチングセンター、上の池（淡水池）、下の池（汽水池）等が設置されており、池と周辺樹林地の自然環境と生物の多様性を維持、保全していくとともに、自然観察や環境学習の場として利用に対応していく。
L	水辺・親水ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・海域に面するゾーン 親水性の高い散策や休息、眺望の利用に対応していく。また、水上交通の発着場や葛西渚橋で連続する葛西海浜公園と連携して利用に対応していく。 海辺の埋立地における施設の維持管理 海辺の護岸については、特に潮風による施設の老朽化の進行及び、利用者のスリップ事故などに、また、本公園は埋立地上に整備されているため、地盤沈下による段差等の発生にも注意し、日常的な巡回、点検を行い、安全性、快適性の確保に努める。

記号	区分	基本方針
M	駐車場 ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場（第1、第3、臨時）のあるゾーン <ul style="list-style-type: none"> 案内機能の充実により、車両による来園者を円滑に誘導するほか、歩行者の安全確保に努める。 路面緑化駐車場（第1 駐車場）については、車両の踏圧があるため芝刈りは行わず、補植や目土かけなどの維持管理を行う。 なお、第3駐車場については、東京都地域防災計画で大規模救出救助活動拠点候補地、医療機関近接ヘリコプター緊急離着陸場候補地、災害時臨時離着陸場候補地に指定されている。公園利用者への周知を図るとともに、災害時使用に支障がでないよう、防災訓練等を通じて現状を把握し、機能確保を図る。
O	外縁部 ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設や公道、海域に接する公園外縁部 <ul style="list-style-type: none"> 本公園の外縁部で、鉄道や幹線道路に面する所では、一体的に良好な景観の形成を図っていく。また、葛西渚橋で連続している葛西海浜公園や南側の海域など、海上バス、海域との関係に留意する。

Ⅲ 図面・写真

【現況平面図】



占用基準を緩和する区域図



凡例

 占用基準を緩和する区域

園内の写真



展望レストハウス



パークトレインと観覧車



観覧車とスイセン花壇



鳥類園 下の池

IV 資料編

■公園の沿革

- 昭和 47 年 1 月 東京都告示第 40 号「東京都市計画葛西臨海公園」として面積 184.8ha を計画された。この公園は、広域公園として次の 2 点に対応している。(①自然環境としての海を保全し修復する。②東京都市計画公園系統の一環を構成する臨海公園を配置する。)都市計画区域は、陸 77.6 ha、水域 107.2 ha から成り、このうち水域については、海上公園区域「葛西海浜公園」(面積約 442.5 ha)と重なって指定されている。基本計画は、都市計画区域の指定を受けた約 184 ha のうち、陸地約 77 ha が対象となっている。
- 昭和 60 年 1 月 葛西沖開発土地区画整理事業の一環として着手した。
6 月 東京都告示第 663 号により、都市計画決定。
- 平成元年 6 月 公園の一部である約 38 ha を開園
- 平成 6 年 4 月 鳥類園ゾーンを開設。
- 平成 7 年 7 月 展望ハウスを開設。
- 平成 11 年 4 月 バーベキュー広場を開設。
- 平成 13 年 3 月 大観覧車を設置。
- 平成 29 年 10 月 2.95ha を廃園
- 令和 3 年 7 月 東京 2020 大会において、カヌー(スラローム)の競技会場として使用。
9 月 0.14ha を追加開園

■マネジメントプラン策定履歴

- 平成 16 年 8 月 パークマネジメントマスタープラン策定
- 平成 18 年 12 月 葛西臨海公園マネジメントプラン策定
- 平成 22 年 3 月 葛西臨海公園マネジメントプラン改定
- 平成 27 年 3 月 パークマネジメントマスタープラン改定
- 平成 27 年 5 月 葛西臨海公園マネジメントプラン改定
- 令和 4 年 3 月 葛西臨海公園マネジメントプラン改定
- 令和 6 年 3 月 パークマネジメントマスタープラン改定
- 令和 7 年 3 月 葛西臨海公園マネジメントプラン改定

■利用状況等データ

1)年間利用者数の推移

	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度
年間総計(人)	3,634,266	3,541,737	2,219,430	1,948,788	3,286,916

2)月別利用者数の推移

5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月
年間総数 (人) 3,634,266	266,508	464,602	247,275	277,115	341,241	275,839
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	417,284	342,119	192,126	262,999	237,913	309,245

■主な催し物(令和5年度実施分)

種別	No.	事業名	実施期間	参加人数(人)
イベント	1	水仙まつり	2月	10,000人
	2	鳥類園での環境学習イベント	通年	—
都民協働	1	地域連携防災訓練	9月~11月	110人
	2	防災ワークショップ	通年	—
自主事業	1	秋の公園フェスティバル	10月	—
	2	ART Marché in KASAI Seaside-Park	11月	1,600人

■主な活動団体(令和5年度調査)

団体名	活動内容	人数(人)
葛西臨海公園 グリーンボランティア	花壇の種蒔き・植栽・手入れなど	20人
ひがた・たんぼ倶楽部	鳥類園内の植生管理、生き物観察	15人
葛西東渚・鳥類園友の会	園内の自然保護整備活動	80人

■関連する行政計画等

- ・「未来の東京」戦略(令和3年3月)
- ・新たな都立公園の整備と管理のあり方について(答申)(令和4年11月)
- ・都市づくりのランドデザイン(平成29年9月)
- ・東京都福祉のまちづくり推進計画(令和6年3月)
- ・緑確保の総合的な方針(改定)(令和2年7月)
- ・都市計画公園・緑地の整備方針(令和2年7月)
- ・東京都地域防災計画 震災編(令和5年修正)
- ・江戸川区地域防災計画(令和5年修正)
- ・江戸川区「都市計画マスタープラン」(平成31年3月)